

ジョルダン標準形の計算例

例題. 次の行列の各固有値に対する広義固有空間を求め, それを使ってジョルダン標準形を求めよ.

$$\begin{pmatrix} -1 & -1 & -1 & -2 \\ 1 & 1 & 1 & 0 \\ 2 & 1 & 2 & 2 \\ 1 & 1 & 0 & 3 \end{pmatrix}$$

[解答例] 与えられた行列を A とする. まず, 固有多項式を求めると,

$$\Phi_A(x) = |xE - A| = (x - 1)^3(x - 2).$$

よって, A の固有値は $1, 2$ であることが分かる. また, 教科書の定理 9.5 により, $\dim V_{(1)} = 3, \dim V_{(2)} = 1$. 一方, 固有空間 V_1, V_2 を計算してみると,

$$V_1 = \left\langle \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ -2 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \right\rangle, \quad V_2 = \left\langle \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} \right\rangle$$

となる. 先程求めた次元を考えれば, $V_{(1)} \neq V_1, V_{(2)} = V_2$ となる.

さて, 上記の結果と教科書の定理 9.17 とを合わせて考えれば, $V_{(1)}$ の基底として

$$\{(A - E)\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_1\} \cup \{\mathbf{x}_2\} \quad ((A - E)\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2 \in V_1)$$

という形のものがとれるはずである. そこで次に, $(A - E)\mathbf{x} \in V_1$ となる \mathbf{x} を求めることにする. そのためにはまず, 連立 1 次方程式 $(A - E)\mathbf{x} = \mathbf{b}$ が解を持つための \mathbf{b}

の条件を調べる必要がある. $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \\ b_4 \end{pmatrix}$ とおいて, $(A - E | \mathbf{b})$ に行基本変形を何回

かほどこすと,

$$(A - E | \mathbf{b}) = \left(\begin{array}{cccc|c} -2 & -1 & -1 & -2 & b_1 \\ 1 & 0 & 1 & 0 & b_2 \\ 2 & 1 & 1 & 2 & b_3 \\ 1 & 1 & 0 & 2 & b_4 \end{array} \right) \rightarrow \left(\begin{array}{cccc|c} 1 & 0 & 1 & 0 & b_2 \\ 0 & 1 & -1 & 2 & -b_1 - 2b_2 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & b_1 + b_3 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & b_1 + b_2 + b_4 \end{array} \right)$$

となるので、連立 1 次方程式 $(A - E)x = b$ が解を持つための条件は、

$$b_1 + b_3 = 0, \quad b_1 + b_2 + b_4 = 0.$$

V_1 の元でこの条件を満たすのは $\begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ の定数倍しかない。そこで $b = \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$

とにおいて、 $(A - E)x = b$ の特殊解を求めると、

$$x = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$

を得る (これに V_1 の元を足したものが $(A - E)x = b$ の一般解)。

以上より、

$$V_{(1)} = \left\langle \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ -2 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \right\rangle, \quad V_{(2)} = \left\langle \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} \right\rangle.$$

さらに、 $V_{(1)}$ の基底と $V_{(2)}$ の基底を並べて、 \mathbb{C}^4 の基底として

$$p_1 = \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad p_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad p_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ -2 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad p_4 = \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

をとれば¹、

$$(Ap_1, Ap_2, Ap_3, Ap_4) = (p_1, p_1 + p_2, p_3, 2p_4) = (p_1, p_2, p_3, p_4) \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 2 \end{pmatrix}.$$

すなわち、 A のジョルダン標準形とその変換行列が得られる:

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 2 \end{pmatrix}, \quad P = \begin{pmatrix} -1 & 1 & 0 & -1 \\ 1 & -1 & -2 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 1 \end{pmatrix}.$$

¹ $V_{(1)}$ の基底は教科書の定理 9.20 の証明に準じて並べ替えている。